冬 外 蜂 然 路 里 路 里 里 路 里 里 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	然然君 新年·爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾爾	次回は一月二十五日(水) 兼題 嫁わが庵の神も発ちしか風騒ぐ秋の日に桜の花が楚々と咲き茜 空 ね ぐ ら 求 め し 鵙 の 声改装の庭に添木のひそみをり改装の庭に添木のひそみをり大川へもみに浮かべて神田川東威し 夜 は 音や む 町 家かなれ に 女 と ち 直を 思 ひつつれ 沢 が 夕 焼 に 映 え る 七 玉 三チ 沢 が 夕 焼 に 映 え る 七 玉 三・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
作闋 മ틊	宁	
信人	8	四点夕星や茶寮の庭に添水鳴りずり
当	益	ゅうずっ五点 旅行書 に捕まれ三年赤い羽
		〈互選高点句・特選句より〉
*	(最る)	◇剪定の終りし庭に添水音
弁慶	(a)	◇狛犬に見守りまかせ神の留守
. **		◇神の留守にもかかはらず神頼み
年安		◇夕閣の迫りし街に鴫せはし
運囲池		◇鵙鳴けば一丁目の空突き抜ける
3	₩	◇旅行書に挿まれ三年赤い羽根◇野倉・三郎のよれりのまれ
=		◇栗飯や二度のお替り児の如しくち ・ り ま ぎ 背 が ぃ モ ク 核
" 一题。	® ®	◇坂下に長き影消ゆ秋夕焼◇入院の母の背痛む冬の鵙
या ।	₩ ₩	◇へ そっ 年 り ず に っ た つ 島 ◇神 宮 の 森 を 切 り 裂 き 鵙の 声
		◇蕎麦屋にて杯をかさねる神の留守
= =		◇デパ地下は常の賑はひ神の留守
僚人		◇鵙日和 警策 発止 座 禅会
=		◇躁鬱の境一声鵙来たり
*		◇神通川鳶の神楽か神の留守
降一		◇瑞々し新米の味国の味
		常難よりも意表を突く詠み方が成功した。
	雲駅伝は神ばかりの大	※神無月は、出雲の国だけは神有月となるので、出門の木 の まま に は ミュニ きょう オート・フィー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
貞風	DIS JUIT A OIL	◎神 の 留 守 出 雲 駅 伝 神 ば か り兼関の孫本を良く詠み込んで舞台装置、道具立てもう
	がくはまたいる。	東圏の旅水を見く承み立いで乗台支置、首見立て500 ※今星(ゆうずつ)=宵の明星。長庚
参 人		⑤夕星や茶寮の庭に添水鳴る。*****
		<i>さぃょし</i> 布唱りある。
FBぐりら。 ※消費者サイドの新米の句は多いが、これは生産農家の立場からの改まった気持ちを表す		
蓮囲池	- 11 0 - 1 0 m	◎嫁に出すごとく新米送り出す
村上谿撃選(の特選(作(囲い文字は特選互選句・EA,例)		
第一五回(句会)・兼題:赤い羽根・新米・添水・神の留守・鵙(百舌鳥・百舌)		
於: 学士会館	月二 日(水)	東北大鬼城句会報 二〇〇七年十二
		v.